

救急センター（救急科）

2015年度の救急センターは4月に師長が交替したことから始まりました。

前任の重永師長も不眠不休で働いても何事もないように顔色一つ変えず、先頭を切って働いている姿がやりりしい人でしたが、後任の山口師長は前任の師長にも増して精力的な人物で、周りのどの人より明るく先頭を切って仕事をします。

救急車の搬送台数も徐々に増え、年間2500台に達するほどとなってきました。

救急外来からの入院患者数も増え、少しずつ救急センターとしての機能を充実させていきます。

2016年4月からは救急科所属の専任医がこれまでの2人から4人となりました。これにより、急患対応できる能力があがり、重傷者を複数人同時に対応できるようになりました。

昨年10月からは岡山に代わり奥村が救急科に専属医師として配置されました。8年を経験した外科医で、口数は少なくやや寡黙な男ですが、最大の特徴はその体力と、心の平静さをいかなる時も保てるその忍耐強い性格です。まだまだ医療人として伸びしろも十分で、将来が期待される少し年をとったホープです。尾中は、私が当科に勤務してからずっと脳外科医として、また多忙な時は救急医として私を陰ながら支えてきてくれた人物です。熱い魂の持ち主ですが、冷静な判断力と行動力は当初から頼りになるものでしたが、2016年4月から救急科への所属となり、脳外科を見ながら正式に救急も見てくれることとなりました。私としましては、大変心強く頼りにし、様々な改革にも取り組むことができるようになりました。江口は、JCHO九州病院から異動となり、優秀な外科医でありまた救急専門医を持った救急医でもあります。性格はマイペースですが、すでにDMAT隊員資格も有しており同じ外科医としても内視鏡手術にも精通した冷静で頼りになる人物です。私を含め、経験豊富な4人の構成は、他の救急センターに引けを取らない体制であると確信しております。

また2016年度からは所見の取り方などにも改善を加え、より高度な診療を目指し、週一回の症例検討会など様々な取り組みを行っています。

救急専従の医師が4人もいるのは下関では当院のみです。その特性を生かしつつ、下関に起きた救急事例に対し先頭に立って取り組むべく努力していく所存です。

これまで同様、重症な症例を含めお困りの際は、救急外来までご連絡ください。

救急科 部長 中原 千尋